

ふれあい中須

編集・発行 中須をよりよくする会・中須公民館

記事と情報は中須公民館まで

89-0301



ふるさと 夜神楽のつどい 1月15日(土)

久保神楽 勇壮に舞う

一月十五日(土)夜、中須伝統芸能伝承館で『ふるさと夜神楽のつどい』が開催され、久保神楽と岩国市錦町の向峠神楽が夜神楽を上演しました。

雪が舞う天候にも関わらず、多くの方々が伝承館を訪れ、迫力ある舞を楽しみました。

久保神楽は、『岩戸開き』と『大蛇退治』を演じましたが、『岩戸開き』について、ちよつとご紹介してみましよう。

『岩戸開き』の舞は、古事記物語上巻『天の岩戸(あまのいわと)』の物語を神楽化したものです。

『天照皇大神(あまてらすおおみかみ)』は、高天原(たかまがはら)において弟、須佐男之命(すさのおのみこと)の度重なる乱暴に、自らの不徳を反省され、天岩屋(あまのいわや)におかくれになりました。

そのため高天原は常闇(とこやみ)となり、悪い神がはびこり次々と悪事が起こるようになりました。八百万神(やおよろずのかみ)たちは、天安川原(あまのやすかわ)に集まって相談をして、天照皇大神のお心を慰めようと宇津女之命(つづめのみこと)に岩屋の前で舞を舞わせました。天照皇大神は、何事が起こったかと岩戸を細めに開かれます。待ちかまえていた力自慢の『手力男之命(たぢかるうのみこと)』が岩戸を押し開き天照皇大神をお迎えになったので、再び世の中が明るく平和になりました。

神々が喜びの舞を舞うと、大きな拍手が会場に響きました。また、『大蛇退治』では、迫力ある勇壮な舞に引き込まれ、会場は熱気に包まれました。

中須の伝統芸能を代表する『久保神楽』。まさに、中須の『たから』ですね。



なかず再発見!

特集) やつと会えたね 『あらたまの滝』

新聞やニユーズなどでご存知の方もいらっしゃると思いますが、湖底に眠るまぼろしの滝『あらたまの滝』が、ついに、姿を現しました!

以前、この『なかず再発見!』でご紹介したこともありましたが、『あらたまの滝』は、阿田川のバス停から尻路方面へと進み、菅野ダムに注ぐ阿田川の下流にあります。昭和四十年に、菅野ダムが建設されたことに伴い水没してしまい、普段はその湖底で静かに眠っています。冬の湧水期、数年に一度、ダムの貯水率が三十パーセント前後になると、その勇壮な姿を現すといわれています。

久野憲生さん(朴)から情報をいただいた私は、寒さが少し和らいだ温かい日差しの中、さっそく取材に出かけることにしました。

阿田川橋を渡って二百メートルほど進むと流れ落ちる水の音が響きわたりはじめます。道路から湖底を覗いてみましたが、まだ見えません。高鳴る胸をおさえながら、もうしばらく奥へ進んでいくと、大きな滝がその姿を現しました。

高さは十メートルくらいでしょうか。岩盤から水が三本の筋に分かれ勢いよく流れ落ちるその姿と、激しい水しぶきの音に、ただただ圧倒され、しばらく目が離せなくなってしまうほどです。

最近では、三年前にその姿が目撃されたようですが、私がこの滝の姿を目にするのは、もちろん初めてのこと。ただ、初めて会った私にも、『よききたね』と、やさしく語りかけてくれるような温かさ、久しぶりに昔の友人に会った時のような懐かしさも感じさせてくれます。

湧水期のこの時期に姿を現す『あらたまの滝』。心地よく吹く風に包まれながら、この滝の姿を眺めている私の頭の中に、『こんな『キヤッチフレーズ』が浮かんできました。

『春の訪れを告げる まぼろしの滝』

・毎年見ることはできませんけど・・・ね

(写真・文 公民館主事 福田)

2・3月の行事予定

日時	内容	場所	備考
2月12日(土) 13:20~14:00	移動図書館 やまびこ号	中須支所	
2月13日(日)	菅野湖畔 10マイルレース	菅野湖周辺	11時スタート
2月28日(月)	自治会長集会	公民館	自治会連合会
3月1日(火) 13:20~14:00	移動図書館 やまびこ号	中須支所	
3月10日(金)	中学校卒業式	中学校	

おしらせ



昨年の10マイルレース(平成22年2月14日開催)

菅野湖畔

10マイルレース

二月十三日(日)、菅野湖畔10マイルレースが実行委員会の主催で開催されます。十五回目の開催となりますが、今年も、各地から約七十名のランナーたちが集まり、なかずのまちを駆け抜けます。

スタートは十一時

みんなで応援しましょう!



中須の人口 2月1日現在

	2月1日現在	前月比
男	404人	(-1人)
女	468人	(-3人)
総人口	872人	(-4人)
世帯数	423世帯	(-1世帯)
高齢化率	46.5%	

